

## 杏仁 ARMENIACAE SEMEN

(基原) 1) 2) 5) 14) 16) 18) 20) 22) 24) 25) 26) 27) 28)

ホンアンズ *Prunus armeniaca* Linne、アンズ *Prunus armeniaca* Linne var. *ansu* Maximowicz 又はその他近縁植物 (Rosaceae:バラ科) の種子である。近縁植物にはモウコアンズ *P. sibirica* Linne (西伯利亚杏)、マンシュウアンズ *P. mandshurica* Koehne (遼杏) の種子を採集したものもあり、また、長期にわたり育種による多数の品種もある。このうちモウコアンズとマンシュウアンズはホンアンズ・アンズと同じ目的に用いられる。

(原植物) 1) 20)

- (1) ホンアンズ (杏樹): 中国の山西、山東、河北、遼寧の南部原産といわれ、中国東北部、華北一帯に分布、野生または栽培。落葉性高木で、高さ 4~9 m、樹皮は暗紅褐色で縦に細い裂け目がある。葉は互生、葉柄は 2.5~4.5 cm で帯紅色、葉身は卵円形で長さ 5~9 cm、細きよ歯縁、葉先は急に細まり尖る。花は小枝の頂に単生、白色から淡紅色で 5 弁、ときに重弁、雄ずいは多数、核果は心臟卵円形で径 3~4 cm、短軟毛で覆われ、側面に 1 本の浅い縦溝があり、黄紅色に熟す。石核はやや扁平、一方の縁は薄くて翼状となる。花期 3~4 月、果熟期 5~6 月。
- (2) アンズ (山杏): 華北一帯に分布し、野生または栽培。日本では甲信越と東北地方で栽培する。ホンアンズに類似するが葉や果実はやや小さくて葉身の長さ 4~5 cm、花は 2 生、果肉は比較的薄く、種子に苦味がある。  
この両種には多くの品種がある。また、この両種を同一種とする説もある。
- (3) モウコアンズ (西伯利亚杏): 中国東北部、内蒙古、華北、山西省に分布。葉の先端はホンアンズよりやや長く尖り、果実は成熟後開裂する。
- (4) マンシュウアンズ (遼杏): 中国東北部に分布。葉縁に粗で深く鋭い重鋸歯がある。

(来歴) 1) 2) 14) 16) 17)

『神農本草経』の下品に「杏<sup>核</sup>仁」の名で収録され、「咳逆上気、雷の如く鳴るもの、喉痺下気、産乳、金瘡、寒心、賁豚を主治する」薬物とされている。また、張元素は「肺熱を除き、上焦の風燥を治し、胸膈の気逆を利し、太陽の気秘を潤す」と述べている。一方、中国では苦味のあるものを杏仁 (苦杏仁【別名:北杏】) と呼び薬用とし、苦味なく甘味のあるものを甜杏仁 (甘杏仁【別名:南杏】) と呼び食用とする。杏仁豆腐の杏仁は甜杏仁で、アンニンとは上海地方の発音である。この 2 つは、種子の amygdalin 量が前者 3.0 %、後者 0.111 % という違いだけで、植物形態的な違いは全くない。

日本には奈良時代に薬用として渡来し、かつては唐桃と呼ばれていた。

加良毛  
ええ

甜杏仁：バラ科のホンアングスの成熟種子を乾燥したもの。味は甘、性は平、無毒。Amygdalin の含有量が苦杏仁より少ないので鎮咳平喘の効力は弱い。臨床では一般に苦杏仁を用い、甜杏仁はあまり使用しない。民間では副食品として用い、つぶして糊状とするか、煮て食べる滑潤通作用がある。18) 19)

(性状) 1) 24) 25) 26) 27)

本品は扁平した左右やや不均等な卵形を呈し、長さ 1.1~1.8 cm、幅 0.8~1.3 cm、厚さ 0.4~0.7 cm である。一端は鋭くとがり、他の一端は丸みを帯びてここに合点がある。種皮は褐色で、外面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があって、粉をふいたようである。また、合点から多数の線管束が種皮全体に分岐しながら縦走り、その部分はややくぼんで縦じわとなっている。温水に入れて軟化するとき、種皮及び白色半透明の薄い胚乳は子葉からたやすくはがれ、子葉は白色である。桃仁とよく似ているが、その外形や種皮の石細胞の形状で区別することができる。

本品はほとんどにおいがなく、味は苦く、油ようである。

本品の表皮の外面を鏡検するとき、線管束による隆起部上の石細胞の形状はほぼ一様で、有角性円形から楕円形を呈し、径 60~90  $\mu\text{m}$  でその細胞膜は均等に厚く、側面視では鈍三角形で、細胞膜は先端部で著しく厚い。

(産地) 1) 2) 20) 22) 25) 26) 28)

中国では華北から内蒙古、さらに甘肅にかけてアング及びホンアングスを栽培し、その種子を取る。日本でのアングは主に長野県や山梨県などで生産されているが、これらは果樹として栽培され、乾杏製造の副産物として生産されることがある。ジャム製造の副産物として生産されるものは製造に際し、熱処理されるものがあり、生薬としては品質が劣る。また、缶詰、その他食用大型果実に品種改良されたものは種子の未熟なものが多く、食用にはなり得ない。そのため、中国や北朝鮮からの輸入で需要がまかなわれており、年間約 80 トンが輸入されている。輸入品は日本産よりやや形が大きく肉厚で、しわがやや少ない。

ホンアングスは中国の山東、華北、東北各省に分布し、アングは中国河北省から北部各省ならびに朝鮮半島に分布し、ともに果樹として栽培される。日本で栽培されるものは主にアングである。モウコアングスは中国東北、蒙疆、シベリアの各地に広く分布し、杏仁としては最も生産量が多い。マンシュウアングはその名の示すように中国東北部が主産地である。

また、苦杏仁はホンアングスの一品種「山扁杏」またはモウコアングスを主原料とし、甜杏仁はホンアングスの一品種「大白板杏」によるが、<sup>東医研日湖北省</sup>両種は要するに味によって区別するのである。

(品質)

【確認試験】 1) 28)

本品に水を加えてつき砕くとき、ベンズアルデヒドのにおいを発する。(しかしこれは桃仁も同様に反応するので両者に識別には役に立たない)

【純度試験】 1)

- (1) 変敗 本品に熱湯を加えてつき砕くとき、敗油性のにおいを発しない。(古くなったものは脂肪油が変敗している場合があり、熱湯を注加してつき砕くと廃油臭を発するものは使用にたえない)
- (2) 異物 本品は内果皮の破片及びその他の異物を含まない。(果皮のいちばん内側にある堅い内果皮は砕きにくく、その破片が混入することがあるため) 純度試験に関しても桃仁と共通である。

【選品】 21) 24) 25) 26) 27)

粒がそろって丸みがあり、味苦く、外皮がはげておらず、敗油臭のないものがよい。いわゆる円実豊満なもので、丸みがあり、外面の上皮が赤みあるもの、砕くとベンズアルデヒドの香気が多いものがよい。

【調製法】 7) 20)

夏の果実が熟しているうちに核の部分を取り出され、秋まで干された後核を割って種子が取り出され天日で乾燥される。『傷寒論』には修治法として「去皮尖」とあって、種皮と胚芽の先端を去って用いると指示してある。これはその純度を高め、毒性を減じるものと考えられる。しかし、今では必ずしもそうではない。

(成分) 1) 2) 5) 14) 16) 18) 20) 22) 24) 25) 26) 27) 28)

青酸配糖体: amygdalin 3% (別名をビタミンB<sub>17</sub>と言われたことがあり、抗癌剤としてこれを大量に投与するレトリール療法が話題になったことがある)

加水分解酵素エムルシン(杏仁中に含まれる)によりベンズアルデヒド、HCN及びブドウ糖に分解する。

脂肪油(杏仁油): 30 ~ 50% (主成分はオレイン酸グリセリド、その他少量のリノール酸及びステアリン酸グリセリドを含む)

フラボノイド: quercetin、isoquercetin

ステロイド類: estrone、estradiol-17 $\beta$

カロチノイド: licopene

など

(薬理)

○ホルモン様作用<sup>5) 14) 16)</sup>

杏仁に含まれる estradiol 類には卵胞ホルモン活性作用がある。

○鎮咳作用<sup>1) 5) 22)</sup>

煎出エキスは、モルモット気管平滑筋のヒスタミンによる収縮を抑制し、エフェドリンによる弛緩反応を増強した。また、同エキスまたは amygdalin は、マウスの経口投与で亜硫酸ガスによる咳に対し鎮静作用を示した。

○消化管運動促進作用<sup>1) 5) 22) 28)</sup>

煎出エキスは、マウスの消化管内炭末輸送の促進、モルモット摘出回腸に対し自発運動の亢進を示した。

○解熱作用<sup>1) 5) 22)</sup>

煎出エキスは、ラットのビール酵母による発熱に対し、体温の低下を示した。

○抗変異原活性作用<sup>1) 5)</sup>

Ames 試験において杏仁のヘキサン画分は抑制活性を示した。オレイン酸、リノレン酸が活性を担っていた。

その他に、杏仁より得られた KR-A および KR-B と称するタンパク質成分に、強くはないが、抗炎症作用及び鎮痛作用があることが報告されている。<sup>22) 28)</sup>

(毒性) <sup>1) 14) 16) 18)</sup>

煎出エキスはマウス経口投与で LD<sub>50</sub> 2.25 (2.02~2.51) g/kg (生薬に換算すると約 20 g/kg)、鎮静、間代性けいれん、過呼吸、跳躍、挙尾反応などを示した後、投与後 30 分以内に死亡する。Amygdalin 600 mg/kg をラットに経口投与すると、次第に嗜眠状態となり、次いで呼吸困難、けいれんを引き起こし、2~5 時間以内に死亡する。無菌ラットではこのような毒性は認められないし、経口致死量よりはるかに大量の腹腔内注射に対してマウスが耐性を示す事実などから、毒性の発現に腸内菌の関与が推定される。しかし、含有量から考えて、杏仁の作用に関与することは考えにくい。

これらの中毒に対する解毒薬として Amylnitrite と Thiosodium nitrate (ハイポ) がある。

(古典的薬効)

薬味：苦<sup>2) 5) 17) 18) 19)</sup>

薬性：温・有毒<sup>2) 5) 17) 18) 19)</sup>

帰経：肺、大腸<sup>17) 18)</sup>

薬効：止咳、平喘、通便<sup>5) 17) 18)</sup>

『神農本草経』 欬逆上気、雷鳴、喉痺氣を下し、産乳、金瘡、寒心、賁豚を主る。

<sup>22) 23)</sup>

- 『名医別録』 味苦。冷利にして毒有り。驚癇、心下の煩熱、風氣の去来するもの、時行の頭痛を主治し、肌を解し、心下急を消し、狗毒を殺す。<sup>23)</sup>
- 『本草備要』 辛苦甘温にして而して利す。肺を瀉し、肌を解し、風を除き、寒を散じ、気を降ろし、痰を行し、燥を潤じ、積を消し、胸膈の氣滯を利し、大腸氣痺を通ず、時行頭痛、上衝の風燥、咳逆上気、上気、煩熱、喘息を治す。小毒あり、よく蟲を殺し、瘡を治し、狗毒、錫毒を制す。肺虚して咳するものは用うるを禁ず。<sup>22)</sup>
- 『本草綱目』 效逆上気、雷鳴、喉痺氣を下し、産乳、金瘡、寒心、賁豚を主る。驚癇、心下煩熱、風氣往来、時行頭痛を主り、解肌、心下急を消し、狗毒を殺す。<sup>23)</sup>
- 『薬徴』 胸間の停水を主治す。故によく喘を治し、心痛、結胸、胸満、胸痺短気、浮腫を兼治す。<sup>5) 17) 22) 23)</sup>

(臨床応用) <sup>2) 17) 24) 25)</sup>

利水、鎮咳薬として(胸間の水毒を駆逐する作用があり)、心下膨満、浮腫、疼痛、呼吸困難。喘息、咳などに応用する。杏仁の脂肪油を除いて水蒸気蒸留し、精製水とエタノールを加えたキョウニン水(杏仁水 AQUA ARMENIACEAE) やさらに桔梗水を加えた復方キョウニン・キキョウ水(復方杏仁桔梗水 MIXTURA PLATYCODI ET ARMENIACEAE COMPOSITA) は鎮咳、去痰薬とされ、杏仁を压榨して取ったキョウニン油(杏仁油 OLEUM ARMENIACEAE) は軟膏基材、油性注射薬の溶剤、毛髪油、ボマード、コールドクリームなどに用いられる。

○鎮咳・去痰作用<sup>17) 18) 19)</sup>

外感や痰濁など実邪による咳嗽・呼吸困難(喘)に使用する。

- ・感冒時に悪寒・咳嗽・咯痰など風寒の症状の見られるものには麻黄・蘇葉などを配合する。(麻黄湯・杏蘇散)
- ・熱感・咳嗽・咽痛など風熱の症状の見られるものには桑葉などと配合する。
- ・気管支炎などで咳嗽・黄痰の見られるものには麻黄・石膏などと配合する。(麻杏甘石湯)
- ・気管支喘息で比較的痰の少ないものには麻黄・蘇葉などと配合する。(神秘湯)

○通便作用<sup>17) 18) 19)</sup>

便秘に使用する。

- ・老人などにしばしば見られる便が乾燥して秘結する習慣性の便秘に麻子仁・桃仁などと配合する。(麻子仁丸・潤腸湯)

喘息には麻黄と配合することが多く、「麻黄は宣肺し、杏仁は降気する」とか「杏仁は麻黄を助ける」と言われている。杏仁単独あるいは麻黄単独の作用より処方全体の複合作用のほうが強力な鎮咳作用が得られるとされている。

(杏仁と桃仁の違い) 7) 20)

	杏仁	桃仁
基原	ホンアンズ、アンズ、 近縁植物の種子	モモの種子
来歴	『神農本草経』下品 「杏核仁」	『神農本草経』下品 「桃核仁」
形状	偏圧した左右不均等な卵形で 一端は鋭く、他の一端は丸み がありその底部に合点がある。	偏圧した左右不均等な卵円形 で、その底部に合点がある。
表皮の側面視	鈍三角形	方形～長方形
成分*	オレイン酸 oleic acid (30 ~50%) amygdalin (約 3%) estrone、estradiol	oleic acid (40 ~50%) amygdalin (約 1.5%) prunasin
気味	苦、温	苦甘、平
帰経	肺・大腸	肝・心・大腸
薬能	駆水剤で胸間の水毒（喀痰な など）を駆逐する作用があり、 する作用があり、喘息、咳嗽、 呼吸困難、心下部膨満、疼痛、 身体浮腫等に用いる。 (潤肺止咳)	駆瘀血剤（消炎性浄血剤）で 下腹部の腹痛、腸癰、月経困 難、月経不順等に用い、しば しば大黃を併用する。 (破血祛瘀)

\*塩可溶性タンパク質のディスク電気泳動法により、杏仁・桃仁は鑑別される。

李杲 「杏仁は結を散じ、燥を潤し、肺中の風熱、咳嗽を除く。杏仁は喘を下し、気を治し、桃仁は狂を療じ、血を治するもので、ともに大便秘を治するものだが、気と血との区別を分かつ」

大塚敬節 「桃仁・杏仁ともに消炎、解毒、鎮痛、滋潤の薬効があるが、杏仁は主に上焦に用いすなわち上半身の病を治す。桃仁は下焦に用い、下半身の病を治す。桃仁は行血、杏仁は行気および水である」

桃仁と杏仁は薬効に異差はあるが、桃仁を杏仁で代用（形鳴散）したり、同一処方に桃仁と杏仁を一緒に配合（潤腸湯）したりする場合もある。

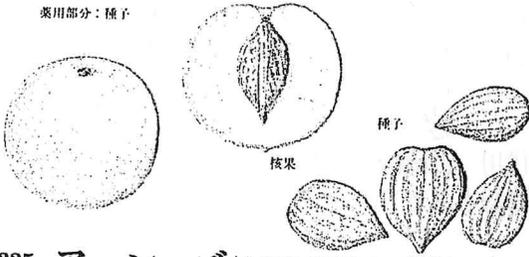
（その他）

・陰虚效嗽や泥状から水様便には用いない。

（参考文献）

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1) 第13改正 日本薬局方解説  | D-266~269         |
| 2) 原色和漢薬図鑑 (上)    | P275~276          |
| 5) 生薬ハンドブック       | P46               |
| 7) 漢方製剤の基礎知識      | 1991.vol 27       |
| 14) 和漢薬物学         | P211~212          |
| 16) 漢方薬理学         | P214~215          |
| 17) 漢方のくすりの事典     | P87~88            |
| 18) 漢薬の臨床応用       | P470~471          |
| 19) 中医臨床のための中薬学   | P360~361          |
| 20) 和漢薬の選品と薬効     | P114~118          |
| 21) 和漢薬の良否鑑別及び調製方 | P218              |
| 22) THE KAMPO     | Vol.10 No.1 22~23 |
| 23) 平成薬証論         | P471~475          |
| 24) 医薬物学研究        | P73~74            |
| 25) 和漢薬の世界        | P58               |
| 26) 新常用和漢薬集       | P34               |
| 27) 薬局の漢方         | P52~53            |
| 28) 天然医薬資源学       | P257~258          |
| 29) 原色牧野和漢薬草大図鑑   | P177、178、182      |

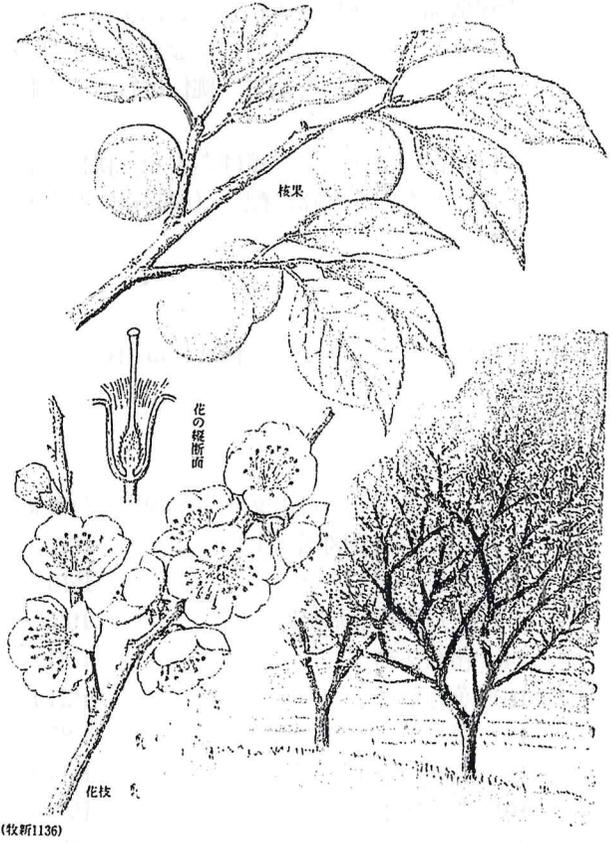
薬用部分：種子



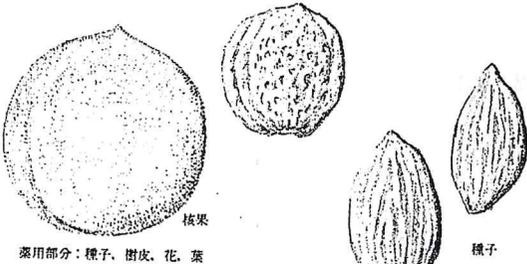
335. アンズ(カラモモ)[サクラ属](ばら科)  
*Prunus armeniaca* L. var. *ansu* Maxim.

(杏子, 杏)

【分布】中国北部原産で、世界各地で果樹として栽培される落葉小高木。日本での生産地は長野県と青森県で、冷涼で生育期間中に比較的乾燥する地帯を好む。【形態】樹高5m位。樹皮は堅い。葉は互生し、卵円形あるいは広楕円形、先端はとがる。花期は春。葉より先に淡紅色で5弁の花を開く。果実は生のまま食べられ、また乾燥して乾杏を作る。【薬用部分】種子(杏仁<キョウニン>)⊙。6月頃果実をとり、その中の種子を日干しにする。【成分】杏仁はアミグダリン約3%、脂肪油35~50%を含み、アミグダリンは酵素エムルシンで加水分解されてベンズアルデヒド、青酸、ブドウ糖を生ずる。また最近ではベンガミン酸が発見されている。ビタミン類は生のものでB<sub>1</sub>、C、乾燥したものはA、B<sub>2</sub>を含み、糖分は5~8%で、ブドウ糖3~5%、果糖1~4%、ショ糖1~5%である。【薬効】杏仁は鎮咳、去痰薬として喘息、咳、呼吸困難、身体の浮腫などに用いる。また種子を圧搾してキョウニン油(杏仁油)をとり、軟膏基剤、油性注射薬の溶剤、毛髪油、コールドクリームなどにも多く使われる。キョウニンの脂肪油を除いたあと蒸留を行い、精製水、エタノールを加えてキョウニン水⊙を製造する。【用法】喘息、咳などには杏仁3~5gを水300~500mlで約30分煎じ、1日3回に分けて服用する。多量に服用すると青酸中毒を起こすので、特に小児の投与は避けたほうがよい。民間ではわきがにアンズの果肉10gとミョウバン0.5~1gを水200mlで煎じて塗布する。



(牧野1136)



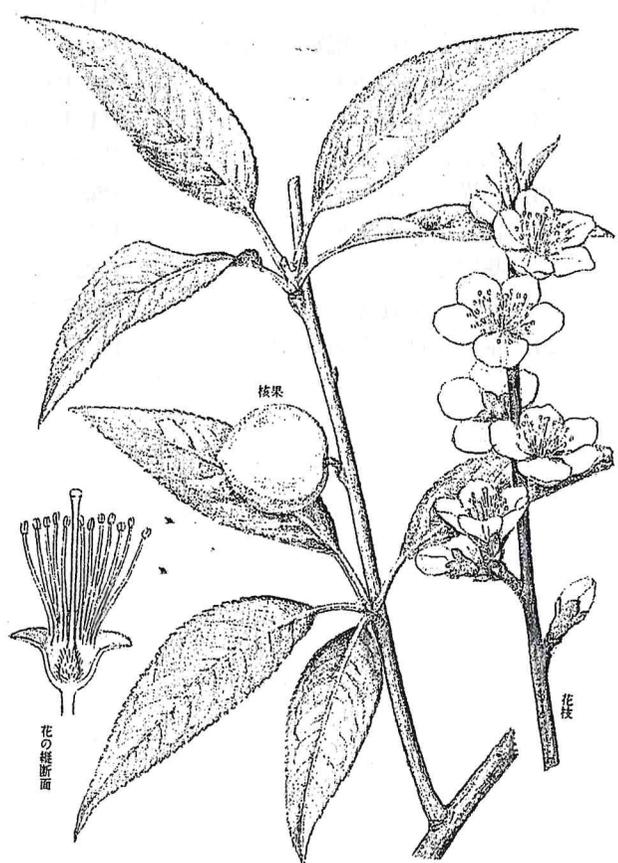
薬用部分：種子、樹皮、花、葉

336. ノモモ [サクラ属](ばら科)

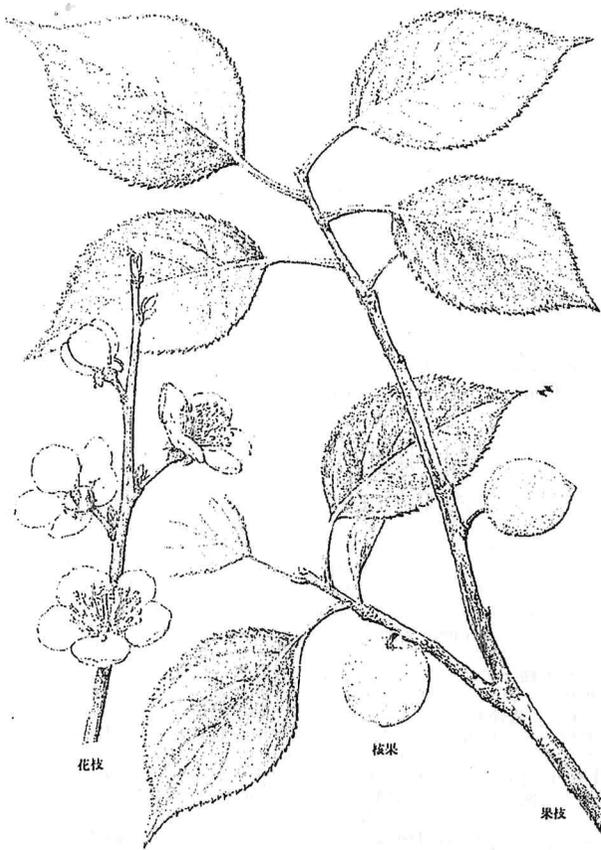
*Prunus persica* (L.) Batsch. var. *davidiana* (Carr.) Maxim. (= *P. davidiana* (Carr.) Franch.)

(中)山桃, 野桃

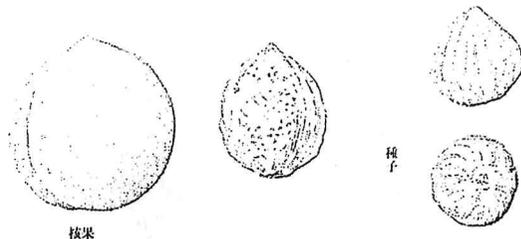
【分布】中国に広く分布し、日当りのよい山地の斜面に普通にみられる落葉小高木。【形態】樹高5~9m。葉は互生で、托葉は早く落ちる。花は単生で3~4月に紅色または白色の5弁花をつける。核果の表面は黄褐色の柔毛におおわれている。核は小さくてかたく、網状の模様がある。【薬用部分】種子(桃仁<トウニン>)⊙、コルク層をとり除いた樹皮(桃茎白皮、桃枝)、葉(桃葉)、花(桃花)。桃仁は6~7月の果実の成熟時につみとり、果肉と内果皮である殻をとり除き、とり出した種子を日干しにする。【成分】桃仁に青酸配糖体のアミグダリン、プルナミンおよび酵素のエムルシン、精油、脂肪油のオレイン酸およびリノール酸のグリセリンエステルを含む。【薬効】桃仁は消炎性の駆瘀血(ふる血を除く)薬として、月経不順・困難、下腹部満痛などに用いる。桃花は、利尿、峻下薬として水腫、便秘症に用いる。民間では生の枝と葉を煮出して、あせもや湿疹の際の浴湯料とする。【用法】煎じて服用する場合、1日量として桃仁は4.5~9g、桃花は3~6gを用いる。【その他】桃仁と杏仁(ホンアンズ *P. armeniaca* L., アンズ *P. armeniaca* L. var. *ansu* Maxim.などの種子)は同じサクラ属の生薬で外形も類似し、ともにアミグダリンを含んでいるが、薬効が異なり、杏仁は鎮咳、去痰薬に使用される。



花の縦断面



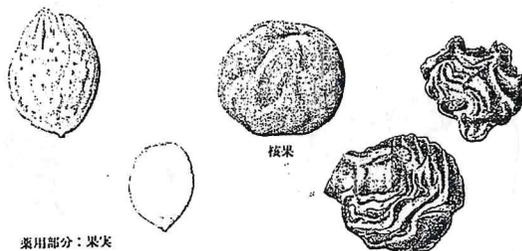
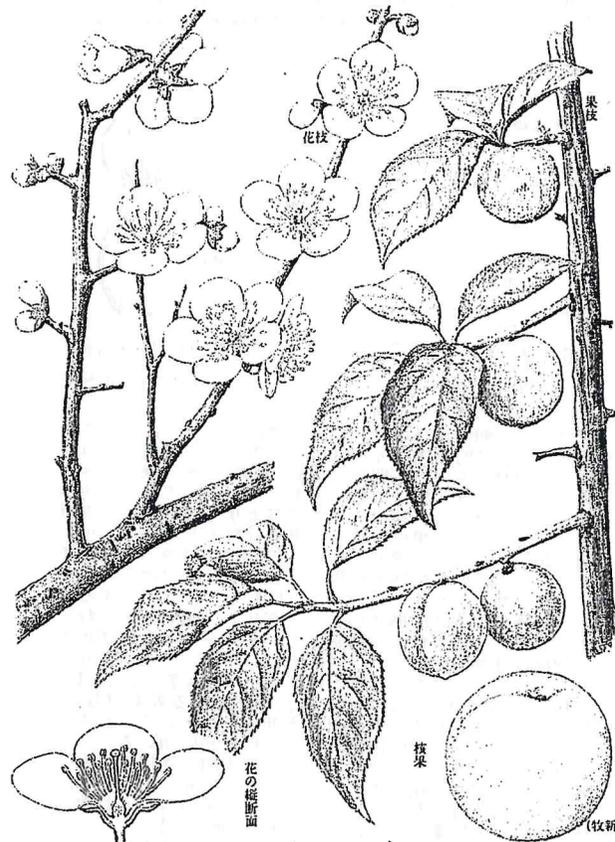
薬用部分：種子



341. マンシュウアンズ [サクラ属] (ばら科)  
*Prunus mandshurica* (Maxim.) Koehne

(中) 杏, 遼杏 (英) Apricot

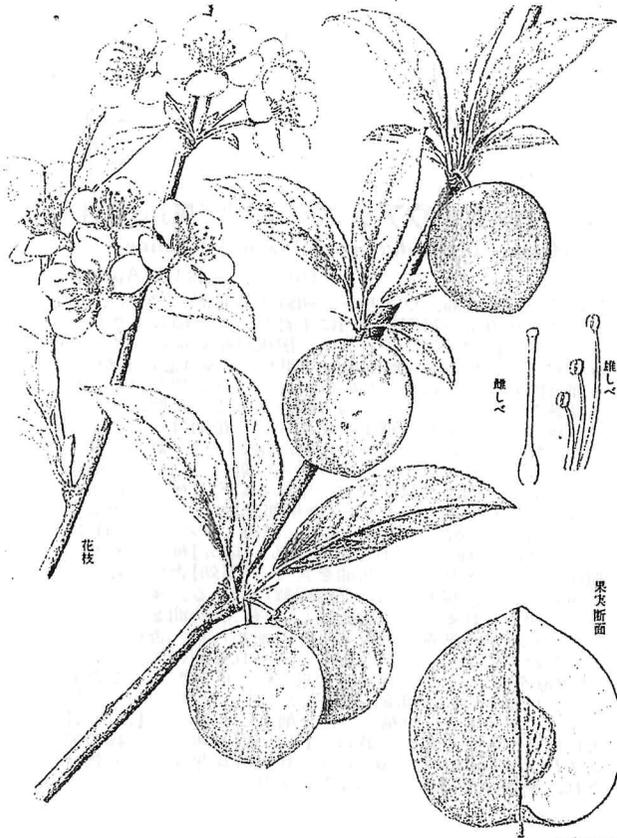
【分布】中国東北部, ウスリー, 朝鮮半島北部に分布し, 山地の日当りのよい斜面や林内に生育し, また植栽もされる落葉高木。【形態】樹高4~9m。樹皮は暗赤褐色。若い枝はなめらかで褐紫色。葉は互生で卵形。先端は急にとがり, 基部は凹形ないしはやや心臓形。縁にはきよ歯がある。葉柄は長さ2.5~4.5cmで, 2個の線点がある。花期は3~4月。枝の先に単生し, 葉より先に咲く。花柄はかく筒より長く, 無毛。淡紅色で花弁は5枚, 雄しべは多数, 花弁より少し短く, 長さは不ぞろい。果実は黄色く熟し, 表面に絨毛がある。内果皮はかたく, 中に心臓形で赤色の種子が1個ある。結実期4~6月。【薬用部分】種子(杏仁<キョウニン>Ⓔ)。夏, 熟した果実をとり, 果肉と中のかたい殻(内果皮)を除き, 種子だけ日干しにする。【成分】種子に青酸配糖体のアミグダリン, 脂肪油を含む。【薬効】杏仁は鎮咳, 去痰薬として, 喘息, 咳, 呼吸困難に用いる。多くの漢方処方に用いられる。杏仁を压榨して得た脂肪油を杏仁油といい, 化粧品や毛髪油として使われる。杏仁から杏仁油を除いた後, 水蒸気蒸留して得られる液にエタノール-水混液を加え, シアン化水素含量0.09~0.11%としたものを杏仁水といい, 鎮咳, 去痰薬として, セネガシロップ, アンモニアウイキョウ精などと合剤にして用いる。【使用法】杏仁は3~6gを煎じて飲む。【その他】日本では近縁のアンズ*P. armeniaca* L. var. *ansu* Maxim.が果樹として栽培され, 果実は缶詰, ジャムなどに使用される。



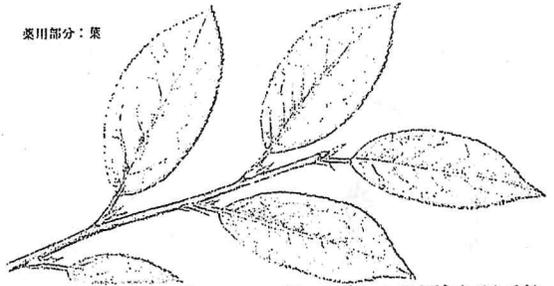
342. ウメ (ムメ) [サクラ属] (ばら科)  
*Prunus mume* Sieb. et Zucc.

(梅) (英) Japanese Apricot

【分布】中国中部原産で, 日本には古代に渡来し, 観賞用および食用のために植栽される落葉小高木。九州では野生化したところもある。【形態】樹高約6m。枝は多く分枝し, 樹皮はかたい。葉は有柄で互生, 卵形で花より後に展開する。花期は早春2月頃。前年の枝の葉えきに白色または紅色, 淡紅色の花をつけ芳香を放つ。果実は5~6月頃黄熟し, 球形で酸味の強い核果である。【薬用部分】未熟果実(烏梅<ウバイ>)。未熟な青い果実を日干しにする。【成分】クエン酸, リンゴ酸, コハク酸, 酒石酸などの有機酸, オレオノール酸などのトリテルペンが含まれる。【薬効と薬理】煎液に抗菌, 抗真菌作用のあることが知られている。その酸味に清涼, 収れん作用があり, 解熱, 鎮咳, 去痰, 吐気止め, 下痢止め, 回虫駆除, 整腸などに単味または処方に応用される。しかし未熟果は, 種子, 葉と同様, 青酸配糖体のアミグダリン, また微量ながら青酸を含むので生食すると逆に中毒を起こす。【使用法】風邪の初期に, 梅干し1~2個を金網にのせ火で黒焼にして, 熱いうちに茶碗に入れ熱湯を注いで, 実ごと飲む。烏梅の場合は水洗いした1~2個を水200mlで半量になるまで煎じ熱いうちに飲む。とげ抜きに, 梅肉を患部にはっておくとういともいう。また1日1回1個の梅干し, あるいは1日1回30mlほどの梅酒など, 疲労回復, 健康保持に有効といわれている。



(牧野1142)



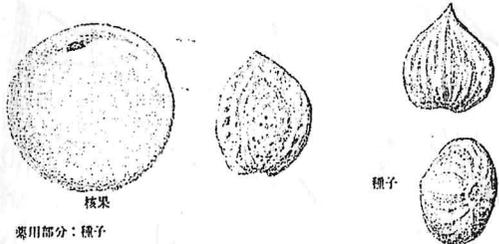
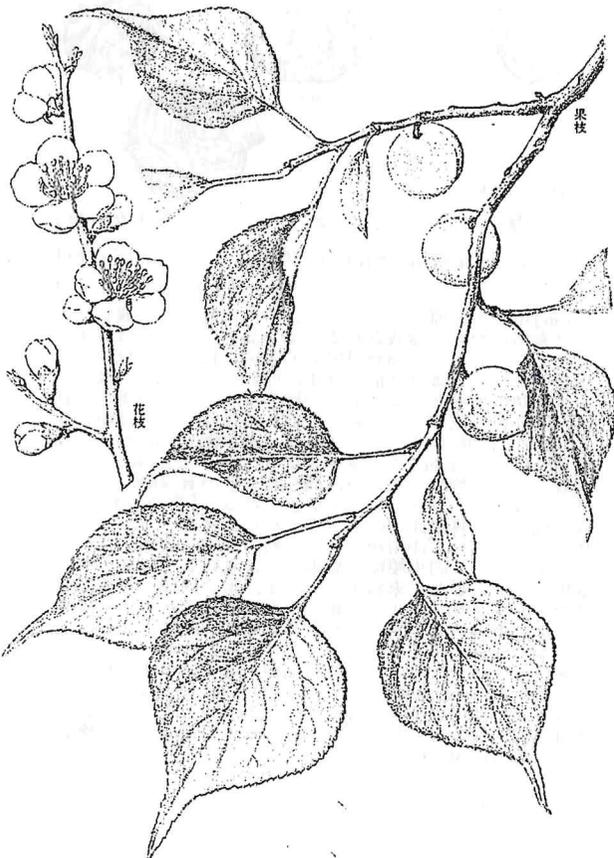
葉川部分：葉

### 345. スモモ [サクラ属] (ばら科)

*Prunus salicina* Lindl. (= *P. triflora* Roxb.)

(李) (英) Japanese Plum

【分布】中国の揚子江沿岸地方の原産で、果樹として日本および東アジアで広く植栽され、しばしば半野生化している落葉高木。【形態】樹高約10m。枝は多数分枝して横に広がる。若時は無毛で光沢がある。葉は互生し、狭長楕円形から倒皮針形で長さ7cm、短鋭尖頭で細き歯縁。花期は4月。白色花を1~3個散状につける。核果は卵円形で基部が凹入し、径5~7cm。【薬用部分】葉(李葉くりょう)、果実(李実、李子)。葉は必要時に採集し、そのまま使用する。果実は6~7月に採集して使用する。【成分】果実に転化糖、ブドウ糖、ショ糖、果糖などの糖類、タンニン、リンゴ酸、サリチル酸、コハク酸、サリチル酸メチルエステルなどの有機酸類、アミノ酸、ペクチン、葉に青酸配糖体のアミグダリンのほか、ラウロセリン、ポリサッカライドなどを含む。【薬効と薬理】薬理作用とその効果についての詳細は不明だが、民間的に、果実に鎮咳作用、葉に消炎作用があることが知られており、咳止め、あせもなどに用いられる。【使用法】あせもには、生薬500gをよく水洗いし、布袋につめて浴槽に入れ、浴湯料として入浴の際に患部を軽くこする。鎮咳、咽喉痛には、果実を黒焼きにしたものを服用するとよい。【その他】繁殖はつぎ木、さし木による。耐寒性が強く、夏の高湿乾燥にも耐えるため、北海道から九州まで栽培されるが、開花期の晩霜、強風、降雨を避ける。排水が良好で耕土が深い植質壤土かれき質壤土が適する。



葉川部分：種子

### 346. モウコアンズ [サクラ属] (ばら科)

*Prunus sibirica* L.

(中) 西伯利亚杏

【分布】中国の河北、山西、東北部、モンゴル、ウスリー、グフリヤ、朝鮮半島に分布し、向陽地に普通にみられる落葉高木。【形態】樹高は4~9m。樹皮は暗赤褐色。葉は互生し、卵形あるいは広卵形、基部は円形。葉の縁は小さき歯がある。裏面の脈は白色の柔毛におおわれている。花柄は短いまたはない。花は3~4月葉より先に咲く。果実は4~6月に熟す。果肉は薄く、果実は熟すと裂開し、中に種子が1個あり、心臟形で赤色。【薬用部分】種子(杏仁<キョウニン>)。夏に熟した果実をつみとり、果肉と肉果皮のかたい殻をとり除き、種子だけにして、日干しにする。【成分】種子に青酸配糖体のアミグダリン、脂肪油を含む。アミグダリンは杏仁中の酸素アミグダラーゼおよびプルナーゼにより加水分解され、プルナシン、マンデルニトリルとなり、さらベンズアルデヒドとシアン化水素となる。【薬効】漢方で気をおろす作用があり、咳を止める効果がある。利水、鎮咳薬として、胸の間の毒を去るとして、心下膨満、浮腫、疼痛、呼吸困難、喘息、咳などに用いる。杏仁を圧搾してとったキョウニン油は軟膏基剤、油性注射剤の溶剤、化粧品基剤とする。杏仁から脂肪油をとり除き、水蒸気蒸留を行ったキョウニン水は日本薬局方でも収載され、鎮咳、去痰薬として使用される。【使用法】杏仁4~8gを水で煎じて服用する。またキョウニン水は1日3mlを3~4回に分けて服用する。極量として1回2ml、1日6ml以下とする。杏仁は多量に服用すると青酸中毒を起こすので、特に小児への投与は避ける。